

小麦/褐色雪腐病

適用病害の発生生態と発病条件

作型と多発時期：積雪下、融雪期

伝染源：土壌、被害残渣

伝染経路：土壌、水媒

発生部位：全身

発病適温・湿度等発病条件：0℃・多湿、積雪期間が長い



被害圃場（北海道M町）

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む 農薬の総使用回数
小麦	褐色雪腐病	1,000	100ℓ	根雪前	3回以内	散布	3回以内
		8	0.8ℓ			無人ヘリコプターによる散布	

褐色雪腐病について

- 小麦の褐色雪腐病は、ビシウム属菌が積雪下で葉などに感染して生じる病害です。
- 多雪地帯の排水不良な圃場（転換畑など）で多く、また、播種が遅れたり、積雪期間が長い場合にも多発します。
- 融雪後の葉は、乾くと灰褐色から淡褐色となり、あまり脆くない薄紙状になって、土に張り付いたようになります。菌核は作りません。
- 症状が激しい場合には、茎の成長点が腐敗し、茎数が減少します。
- 北海道では雪腐褐色小粒菌核病などを併発している場合が多く、他の雪腐病の病徵が目立つため、本病が見過ごされやすい。

上手な使い方

- 現在、小麦の褐色雪腐病に登録のある有効な薬剤は本剤のみです。
- 以下のような耕種的対策を併せて実施してください。
 - 排水を良くする、連作を避ける、適期に播種する（遅播しない）、融雪促進を行う、など。
- 根雪直前の散布を心掛けてください。
- 敷設後降雨があった場合や、根雪までの期間が長すぎた場合は、使用基準の範囲で再散布してください。
- 他の雪腐病が併発する場合は、それらの有効な薬剤を組み合わせてください。

小麦 褐色雪腐病に対する効果試験例

地上部散布

試験年次	試験場所 供試品種	発生状況	処理月日	根雪始め	試験区分 (ランマン希釈倍数と処理法)	試験結果		
						発病度	防除価	薬害
平成11年	中央農試 チホクコムギ	多発生	11月24日	12月 3日	1,000倍液/100ℓ/茎葉散布	25.5	52	無
					無処理	53.4	—	—
平成12年	中央農試 チホクコムギ	中発生	11月27日	11月28日	1,000倍液/100ℓ/茎葉散布	30.8	37	無
					無処理	49.0	—	—
平成12年	深川市 チホクコムギ	多発生	11月15日	11月18日	1,000倍液/100ℓ/茎葉散布	38.3	43	無
					無処理	67.5	—	—

考察：ランマンプロアブルの1,000倍液散布は、無処理区に比べ効果が認められ、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

無人ヘリコプター散布

試験年次	試験場所 供試品種	発生状況	処理月日	根雪始め	試験区分 (ランマン希釈倍数と処理法)	試験結果		
						発病度	防除価	薬害
平成12年	長沼村 チホクコムギ	中発生/褐色雪腐病 100%	11月24日	11月18日	8倍液/8ℓ/ha	32	22	無
					無処理	41	—	有効
平成12年	深川市 ホクシ	中発生/褐色雪腐病 62.5% 雪腐褐色小粒菌核病 37.5%	11月17日	11月18日	8倍液/8ℓ/ha	23	26	無
					無処理	31	—	有効

考察：ランマンプロアブルの8倍液無人ヘリコプター散布は、効果はやや低いが実用性があると判断された。薬害は認められなかった。